



鈴鹿の

レガシー 遺産

～鈴鹿の未来に向けて～

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

市制施行80周年記念 みんなで創ろう！ レガシー事業(箕田小学校)

みんなで創ろう！レガシー事業は、市制施行80周年記念事業として、市内の小・中学校が、学校単位で自由な発想により企画した取り組みを行う事業です。

今回は、箕田小学校のレガシー事業の取り組みを紹介します。



事業名:箕田小オリジナルSDGsハンカチを使って、いつも清潔な手で、健康・元気な箕田っ子!

箕田小学校がレガシー事業として取り組んだのは、児童がSDGs(持続可能な開発目標)の啓発となるようなオリジナルデザインのハンカチ作成。

まず、全校児童が、色鉛筆やクレヨンなどを使ってデザインを考え、その中から、優秀作品として27作品が選ばれました。

その後、この取り組みの実行委員会が、デザインの素晴らしさに加え、タオル生地ハンカチにした場合でもその魅力が伝わるのか、といった視点で最優秀作品1点を選び、オリジナルデザインを決定。世界に一つだけのSDGsハンカチが完成しました。

完成したハンカチは、全校児童が自分たちで使うだけでなく、地域の方にも配布され、地域におけるSDGs啓発の一助になっています。



▲最優秀作品を選定した実行委員会

▶デザイン考案者の

山本幸来さん



ひと・まち・モータースポーツ

山口県のチームが鈴鹿で活動

鈴鹿を拠点に活動する2輪チーム「オートレース宇部レーシングチーム」。結成初年度の昨年、全日本ロードレース選手権ST1000クラスでランキング4位に輝いた、期待のチームです。

山口県宇部市に所在地を置く同チームが鈴鹿で活動する理由、それは選手とメカニックに、鈴鹿と深いつながりがあったからです。チーフメカニックである伊神常高さんは、元はレーシングライダーを目指した一人。鈴鹿サーキットレーシングスクール(SRS・現HRS)で学んだ後、メカニックに転身しました。そして、チームのエースライダーであり鈴鹿8耐などで活躍中の津田拓也選手も同じく、SRSの卒業生。実はこの二人、同時期に共に学んだ“同窓生”なのです。

そんな二人の共通の知人である中井貴之監督らのコーディネートによりチームが結成され、山口県のチームながら、「レースを行う最高の環境」を求めて、鈴鹿にやってきました。

より一層の高みを目指して、“鈴鹿”をキーワードに集まった挑戦者による新たなシーズンがもうすぐ始まります。



▲ピットで津田選手(右)にアドバイスする伊神さん

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



明けましておめでとうございます。本年も、広報すずかをご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

昨年から、物価高騰が続いています。あらゆる物が値上げされ、スーパーに買い物に行っても、購入を諦めることが多々あります。皆さんも、財布のひもを堅くされているのではないのでしょうか。ちなみに私は、日々の晩酌をやめました。

今回の特集では地域新電力会社を紹介しましたが、未来に良い環境を残すためには、二酸化炭素排出量の削減が不可欠です。私たちにもその取り組みが求められますが、それは難しいことではなく、電気代やガス代の節約など、すぐに始められることばかり。家族でお風呂の時間を合わせたり、こまめに消灯したり…。物価高騰の折、環境にもお財布にもやさしい生活を送りたいものです。(一)